

# 優秀賞

<p>企業・団体名</p>	<p>株式会社アトリエテンマ</p>	
<p>プログラム名</p>	<p>仕事体験・デザイナー体験 学校訪問授業「SHOP DESIGN」</p>	
<p>活動の内容 (概要)</p>	<p>“デザインとは伝えること”という定義のもと、生徒達が、サービスの考案から購買までの心地良さの提供という全体をデザインした「世界一のお店をつくる！」ことで、課題に対し“本気で取り組み考え抜く力”、協力しあう“コミュニケーション能力の向上”、決めたことを“やり遂げる力”を涵養していくことを目的に学校と協力し毎年実施している。</p> <p>具体的には、3日間（計6～8時間）かけて、プロデザイナーが用いる以下の手法により実施。</p> <p>「導入」：講師と生徒が「デザイン」についてディスカッションし“デザインとは伝えること”という定義を理解。各チームが“世界で一番”と思うお店のコンセプト提案 「制作」：メンバーで役割分担し、お店の模型制作</p> <p>「発表」：制作したお店を紹介するプレゼンテーション及び講師等による表彰</p> <p>各チーム（5～6人）が制限時間の中「導入」「制作」「発表」の3工程で作業を展開。各自役割に責任を持ちチームで協力し、生徒・講師・教員・父兄の前で、チーム全員で発表を行う。生徒全員で全チームを採点し、講師の採点と合わせて優勝チームを決定し表彰する。</p> <p>生徒達が本気で取り組むことで、生み出すこと、やるべき事、厳しさ、ルール、チームワークの大切さ等の気付きを促す。</p> <p>プロの仕事の楽しさ・大変さがリアルに伝わることで「本物」を知る楽しさや驚きが生徒達の興味へと繋がり、働くことの意義、やりがいを考えるきっかけづくりをつくる。</p>	
	<p>自分たちで考えたコンセプトとデザインで模型制作。体育館に並んだたくさんの素材は生徒達の本気とやる気に火をつける。</p> <p>壁、床、看板、小物類など、それぞれに役割を分担するなど、チーム内で上手に話し合って作業を進めていく。生徒達にとって、自由で斬新なアイデアが次々と浮かび、時間を忘れて夢中になる時間となる。</p>	
	<p>出来上がった模型をチーム全員で発表。演劇風だったり、ナレーションがあったりと個性豊かなプレゼン発表に大人達も驚く。講師からはプロ目線で講評。</p> <p>発表中は、生徒、先生、講師が全てのチームを採点。グランプリに選ばれるのは1チームのみ！表彰式、最後に塾長（アトリエテンマ デザイン塾長 長谷川 演）の総括で終了。</p>	

## ＜審査委員からの評価コメント＞

- 通常の授業で扱うことは少ないが、児童生徒にとって敷居の低いデザインを取り上げ、実施機関のスタッフとプロデザイナーの参加協力や、児童生徒の主体的な関わりを求める精緻な仕組み。
- 父兄や地域を巻き込み、正解がないものへの取組を通じて、生徒の中にある自由な発想を他社に伝えられる経験ができるプログラムとなっており、自己肯定感の向上も期待できる。
- ひとつの視点を掘り下げることにより、広くキャリア全般について考える学習となっており、充実したプログラムが組まれている。

# 優秀賞

<p>企業・団体名</p>	<p>一般社団法人ドリームマップ普及協会</p>
<p>プログラム名</p>	<p>主体的に生きる力を育む 「キャリア教育・ドリームマップ授業」</p>
<p>活動の内容 (概要)</p>	<p>キャリア教育・ドリームマップ授業は、幅広い年代を対象に生きる力を向上させる教育プログラムを児童・生徒の発達段階に合わせて構成したものです。 「夢とはワクワク心が動くこと」とであると知り、「夢（ビジョン）を描く力」「夢を信じる力」「夢を伝える力」を育むことを主な目的としています。1日6時限の中で肯定的な自己分析→「なりたい自分像」を視覚的に表現→発表と段階的に進み、周囲からの応援も力に、自信を高め、実現に向けた発展的行動につなげます。 「自分はどんな大人になりたいか？」を多様な視点で考え、自身の喜びと共に他者やよりよい社会に貢献しながら幸せに活躍する姿を想像する過程で、社会の中の自分の存在に気付き、将来への期待につながります。夢を職業に限定せず、自分が意欲を持てるものや大切にしたい価値観を大事にする、という考え方をすることは、自分軸の形成を助け、予測困難な変化に富む世界の中で主体的に柔軟に生きる力になります。 授業を実施する認定講師は、会社員、経営者、専門職、職人、主婦や定年後のシニアなど多彩な職種や多様な世代であり、夢を持ち自分を大切にしながら社会に貢献することを楽しんでいる元気な大人の姿が、将来のキャリアを思い描く時に明るい見通しを与えています。 教育委員会による初任者・現役教員向けの研修や教職を目指す大学生のゼミでの授業に採用され、教員自らがキャリアを考察するきっかけにもなっています。</p>



3・4 時限目のドリームマップ作成時間の様子。  
グループで作成することで、お互いに刺激し合い、話をしながらも、自分の作業に集中している。  
中学校などでは、前を向いて一人ひとりで自分と向き合いながら作る場合もある。

ドリームマップ授業を図工の授業と組み合わせ、二分の一成人式の時に体育館の壁に全員の夢を貼り、一人ひとりが保護者に向けて発表会を行った事例。また、模造紙の中心にドリームマップを貼り、周りに夢を広げて完成させる学校もある。

### <審査委員からの評価コメント>

- 認定講師による質を確保した上で、専門的な見地から練られた良質なプログラムであり、独自のワークブックも用意されている。
- 各学校で実践されている「職場体験」「1/2成人式」等の体験活動と接続し、その事前・事後指導として有効的に効果を発揮している。
- 日常の勉強や練習の努力が、自身の夢の実現につながっていくことが明確な形で分かるようにする取組は重要な価値があり、お互いに発表することにより他社を尊重し、相互理解の経験につながっている。

## 中小企業の部 奨励賞

企業・団体名	東京商工会議所
プログラム名	東商リレーションプログラム
活動の内容 (概要)	<p>1. 企業と大学の橋渡し 2015年8月に「中小企業の魅力発信」と「大学初年次からの職業観の醸成」を目的に開始。中小企業の「会社ツアー」や「仕事観察」などを会員企業で体験するプログラム。「会社を知る」、「仕事を知る」をテーマに学生が企業に足を運び、経営者や従業員と接することで視野を広げ、卒業後の進路を考える参考にしてもらう。「仕事観察編」は、初年次に「会社ツアー編」に参加した2年生が同一企業の仕事をさらに深く学ぶ。受入れ可能企業を募集し、大学（東商会員）のキャリアセンター等を通じて参加学生を募る。参加企業および大学を順次拡大し、学生の休暇期間を中心に年2回開催。</p> <p>2. 事前研修会の実施 学生の参加目的を明確にするために行う。学生は企業を選んだ理由や学びたいことを、ワークシートを基に個別学習。当日はグループワークと発表を行い、企業・大学担当者からフィードバックを受ける。終了後には、今後の本プログラムをより良くする目的で、企業・大学担当者間の情報交換の機会を設定。</p> <p>3. 企業訪問とフィードバック 全企業に職員が随行し、企業と連携して運営を行う。終了後には企業・大学担当者と学生からヒアリングし、その後の活動に生かす。</p> <p>4. 「東商学生サイト」における情報発信 中堅・中小企業の魅力を学生に発信する目的で2016年10月に開設した「東商学生サイト」にて、他社事例や参加者の声を掲載し、普及活動を行う。</p>



大田区の町工場にて金属加工の体験をする大学1年生。学生は「もの作りを体験することで、日本の技術力の高さを肌で感じる貴重な機会だった」との感想を寄せた。



学習塾にて生徒の支援・補助を行う。「相手の意思を尊重し、意見を聞きながらプログラムを進めていくことの大切さを学んだ」「今回の体験を大学における福祉分野の学びに繋げていきたい」などの成果を得ている。

### ＜審査委員からの評価コメント＞

- 多数の会員企業、大学等のネットワークを活かし、中小企業、大学生の課題に即した現実的なプログラムを展開しており、会員サービスの一環として期待できる事業内容でもあることから他の商工会の見本となる。
- 早い段階で中小企業の役割と仕事を学生に理解させることは重要であり、中小企業単独では行いにくいプログラムを商工会議所が主体となって実施している点を評価。
- 大学入学後の早い段階から就業や働くことについて新たな発見や確認を促し職業観を醸成している。

# 奨励賞

<p>企業・団体名</p>	<p>徳島県信用保証協会</p>
<p>プログラム名</p>	<p>未来の“経営者”たちに地域ビジネスのすすめ ～夢をカタチにする生き方・働き方～</p>
<p>活動の内容 (概要)</p>	<p>徳島県信用保証協会は、徳島県内の小中学校・高等学校・専門学校・大学・企業などと連携協力し、キャリア教育として各年代に合わせたプログラムを企画・実施している。</p> <p>小中学生に対しては、「働くことへの興味・関心を高め、夢を叶えるための準備」を学んでもらうことを目的としており、出前授業「仕事セミナー」を通じて、仕事や働くことについて考える機会を設け、夢を持つことや、今から「何を考えて考動する（自ら考え動くこと）べきか」考えるよう投げかけている。</p> <p>また、高校生や大学生等に対しては、働いていく先には、「仕事は与えられるものでなく、仕事は自らが創り出すもの」との観点で、創業を目指す人材を育てるため、社会の仕組みをよりよく理解し、仕事への興味・関心をもってもらい、夢をカタチにする方法の一つとしてビジネスプランを作成し、プレゼンテーションする方法を教えている。</p> <p>さらに、大学生には、様々な社長（経営者）と交流をもつことで、社長の生き方・考え方・働き方に興味・関心をもってもらい、将来的には地元で創業する意識の醸成を図っている。</p> <p>このように、当協会は公的金融機関の信用力とネットワークを活かし、キャリア教育の様々な経験に基づき、徳島県内の主要な教育機関と連携したキャリア教育を積極的に行っている。</p>



（出前授業「仕事セミナー」を飯尾敷地小学校にて5年生34名に実施）

創業支援活動の一環として、将来を担う生徒達に、「金銭」について正しい知識を教え、学びの必要性を感じてもらい、「お金とは」「働くとは」に対する価値観を醸成し、「将来の生き方」への興味や関心を喚起することを目的として実施した。

セミナー終了後の感想文には、「最初、仕事は大変なことだと思っていたけど、みんなの役に立つことができ感謝されるので、働くことは素晴らしいことだと思いました」「今は夢がないけど、今できることを一生懸命に積み重ねることで地域に役立つ働き方をしたい」等、前向きで夢のある感想が多数寄せられた。



（社長のかばん持ちを吉野川タクシー有限会社にて実施）

社長のかばん持ちでは、学生7名がそれぞれに地域で活躍する4名の若手社長の会社に訪問し、社長の働き方に密着することで社長の働き方・考え方を間近で体験するプログラム。

また、業務の合間には「仕事とは」「働くとは」「求める人材」等について話し合い、社長の生き方、考え方に触れることで「自分らしい働き方」について考える機会を持った。

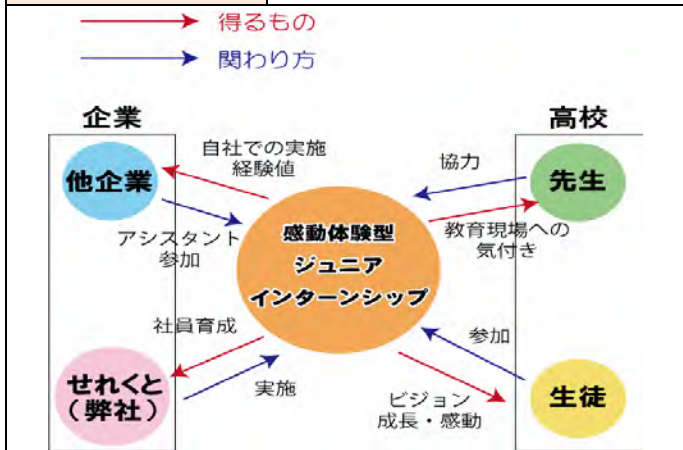
さらに、報告会では学生が会社の課題解決に対する提案・提言を行うことで、地方の中小企業で自分が何が出来るかを考える機会となる。

### <審査委員からの評価コメント>

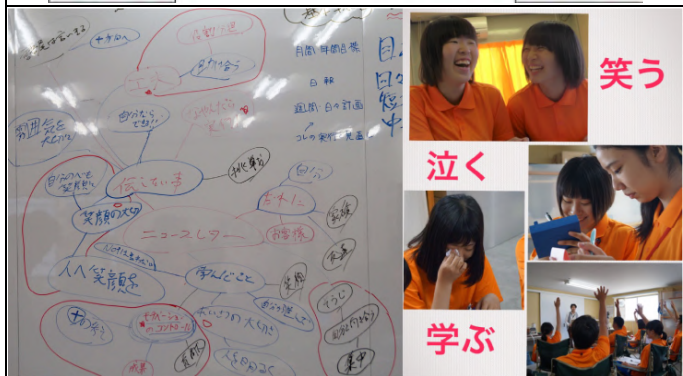
- 幅広い対象に、各々の発達課題等に応じた豊富なメニューと実践的なプログラムを実施しており、金融機関のネットワークを活用した教育機関との連携は他の地域の見本となる。
- 地域の産業発展に貢献できる人材づくりには、このような取組がベースにあるべきと感じさせるプログラムであり、地元で起業する人材の輩出が期待される。
- 地域の児童生徒・学生に、学ぶこと、働くことを地元目線で伝えるメッセージ性のある活動プログラム。

# 奨励賞

<p>企業・団体名</p>	<p>有限会社せれくと</p>
<p>プログラム名</p>	<p>感動体験型ジュニアインターンシップ（高校生向け、支援学校生向け）</p>
<p>活動の内容 （概要）</p>	<p>【自分らしく輝く人生をイメージする】【短期間で驚くほどの成長を体験する】 この2つをテーマとして設計したジュニアインターンシップを高校生に提供しています。初日は緊張で声も小さく消極的な生徒が、3日間で、生き生きと目を輝かせ取組むようになります。最終日には感動で涙する生徒が続出します。</p> <p>構成は、業務体験とワークの2種類です。</p> <p>業務体験は、その仕事を行っている従業員が「自分の仕事への誇りや顧客への想い」などを語る事から始まり、仲間となって一緒に業務を体験します。目標設定や改善アイデアなどを生徒同士が話し合うプロセスを毎回実施し、生徒たちの自主性を育み、協力する力や発言力を磨きます。</p> <p>ワークは、業務体験とリンクする形で講義とゲーム形式で行います。人生を漠然と生きるのではなく、輝いた人生を描くためのビジョン作りとそこから逆算する方法を学び、実際に自分で人生プランを描く練習などをします。それまで積上げ方式で未来を描いていた高校生が、なりたい自分像から逆算した今を描く体験を通して、日々に対する本気度が明確に変わります。</p> <p>この一貫した構成が、学びと同時に体験となり、知識だけでなく経験として生徒たちの成長につながります。実際に3日間で驚くほどの成長を見せてくれます。</p> <p>支援学校の生徒は、10日間の日程で同様の内容を組み換え、個々のペースに合わせて学び、実践し、同様の成果を得ています。</p>



感動体験型ジュニアインターンシップの相関図  
高校生は、ジュニアインターンシップを通じて、自分の可能性に気づき、ビジョンを描くようになります。社員は、ジュニアインターンシップを実施することで自分たちの日々の努力を再確認するとともに、高校生から感謝される機会を通して自分の行動への自信を深めます。先生は、生徒の変化する姿と弊社の生徒に対する全て受容する関わり方を見て、教育現場で活かせる気づきを得ます。他の企業は、ジュニアインターンシップの運営を手伝うことで、自社での実施へのヒントを学ぶとともに会社運営における人間関係のヒントも得ています。



【写真真】3日間のインターンシップでの学びをマインドマップで表現しています。これを基にニュースレターを作成します。成果物を残す・第三者に出来事や自分の心の中にある想いを伝える力を身につけることが目的です。葛藤しながら挑戦し、ひたむきな努力や学びとともに、笑って泣いて本気で過ごした3日間の様子が記されています。これから社会に出る高校生を応援してもらえる機会を作りたいと思い、このニュースレターを弊社の全国のお客様に『あらいぐま通信』としてお届けしています。

<審査委員からの評価コメント>

- 社員総掛かりで地元生徒のキャリア教育に協力しており、社会人基礎力を高めるために必要な汎用性のあるプログラムとなっている。
- 学習効果を期待できる様々なハードルを設定することにより、体験活動そのものの質的向上が期待できる取組であり、感動体験型というユニークなプログラムを設計・実施している。
- 職場での業務体験とゲーム化したワークで構成されており、手作り感があるが、どのような企業でもできる範囲でキャリア教育に携われる好事例として、全国的に周知したい。

## 中小企業の部

<p>企業・団体名</p>	<p>株式会社スリーハイ</p>
<p>プログラム名</p>	<p>企業が考える地域子育て。小学3年生社会科校外授業「こどもまち探検」</p>
<p>活動の内容 (概要)</p>	<p>私たちが籍をおく東山田準工業地域は、港北ニュータウン開発時に点在する工場を集約する地区として準工業地域に指定され、以来、中小の製造業を中心とした工業ゾーンを約80社で形成されています。</p> <p>2013年、子どもたちにもっと企業を知ってもらおうと「こどもまち探検」をスタートさせました。</p> <p>昨今「産業」と「生活」は分断され、働き、住みやすくなりました。その反面、近所で働くところを見たり聞いたりすることが減ってしまい、子どもたちの将来の選択が偏ったり、更に視野が狭くなってしまったことで子どもたちは夢や将来像が描きにくくなっているのではないのでしょうか？</p> <p>また準工業地域は小学校や住宅から近い場所にありながら、子供や住民と接点が少なく「仕事の内容・働く人の思い」などを地域住民に十分知ってもらえていない現実があります。</p> <p>まずはこの「こどもまち探検」を身近な地域（横浜）の人にも知ってもらい、この活動をきっかけに全国の準工業地域や工業団地が「地域子育て」をしていく活動を広めていきたいと思っています。</p> <p>私たちは未来を創る日本の子供たちに、地域に「こんな大人が居る！」「こんな仕事がある！」と知ってもらい将来の夢や希望を持たせてあげたいのです。そしてこの熱い思いを全国の企業の皆さんに届け、知ってもらいたいのです。</p>
	<p>3 クラスの生徒さんが集合場所にやってきました。「どんな会社があるのかな？」「危険なところがいっぱいあるからまわりの大人の人たちの言うことをよく聞くようにね、そして何よりも楽しんでください！」と男澤より説明があります。そのあと数班にわかれ、地域の大人が見守る中スタートです。2 時間後、美里橋サークルさんが作った準工ロードの菊花を見ながら解散となります。</p>
	<p>工場見学の最後は、恐怖の質問コーナーです。どんな質問ができるかわからないので企業側（主に社長さん）はドキドキします。「仕事でつらいことはなんですか？」「どうして会社をやっているのですか？」「社長さんになるためにはどうしたらいいですか？」など質問が止まりません。9 歳にわかるように説明するのは難しい。社員さんの前でうろたえる社長さんは勉強になるよと言ってくれています。</p>

## 中小企業の部

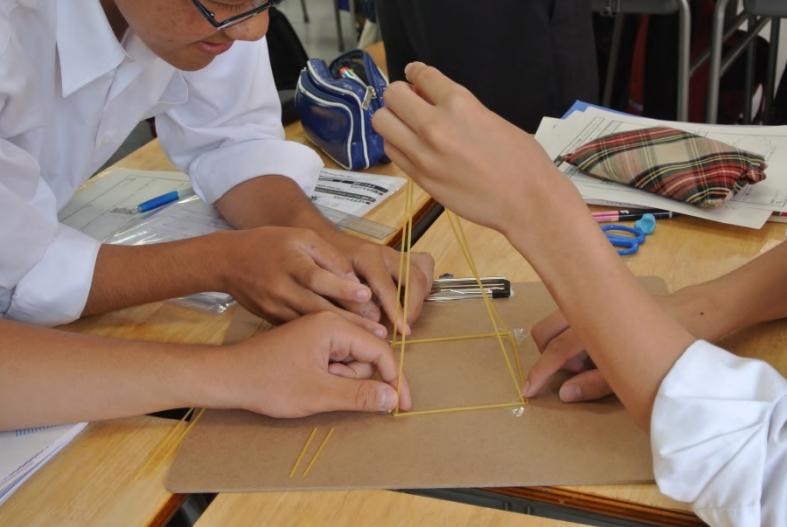

企業・団体名	大阪府中小企業家同友会	
プログラム名	大阪府下の高校とのキャリア支援活動	
活動の内容 (概要)	<p>2011年に学校からキャリア支援授業に関する依頼を受けたことを契機に活動を開始。授業では同友会会員1～2名に対し、生徒7～8名でグループ討議を行い、高校生が自分の言葉で、自分の思い、考え方を語り、職業観や人生観を醸成することを促しています。</p> <p>地域で若者を育成する中小企業の役割を認識し、雇用に消極的だった企業も、新卒を求人できるような会社を目指し、企業風土強化の取組み、また高校との連携で、今まで求人をしたことのない企業も高校新卒に取り組みようになりました。教員は企業訪問をする機会などが増え、お互いの立場を理解する関係が築かれています。</p> <p>本プログラムの実施前後で、進路未決定者が減少したという例が多く的高校で見られています。</p>	
	<p>2015年10月8日に開催した大阪府立枚岡樟風高校との交流会の様子です。</p> <p>まず現場教員から苦悩しつつも生徒と向き合う報告、同友会経営者から社員育成の報告の後、「企業が学校に求めること、学校が企業に求めること」をテーマに、教員69名、会員27名で13グループに分かれて、グループ討議が行われました。</p>	
	<p>2016年8月に開催された中河内地区若手教員の企業訪問会の様子です。10チームに分かれ、会員4名と教員4名で、企業見学の後、経営者から会社説明や、教員からの様々な質問に答える企画です。2016/8/2～8/5で経営者参加総数32、教員参加数36名です。</p>	

## 中小企業の部


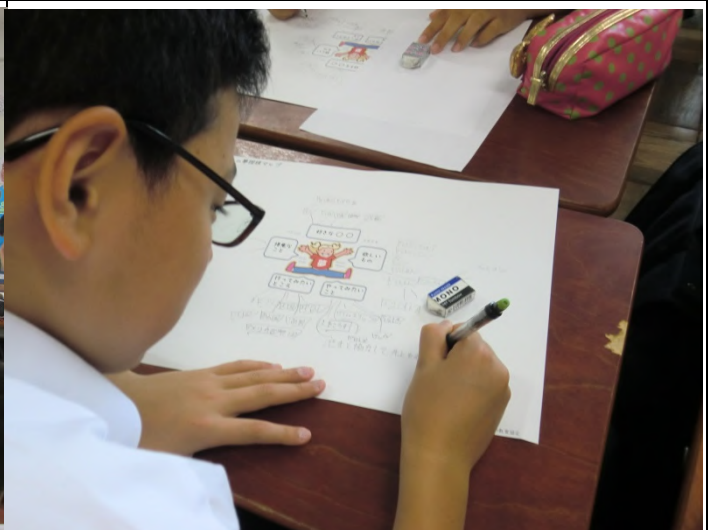
企業・団体名	熊日宮原販売センター
プログラム名	学資力向上プログラム（大学生、大学院生、高専生） 地域の担い手育成プログラム（子ども記者クラブ小中高生 50 人）
活動の内容 （概要）	<p>教育現場における教官・教諭の負担が過大な昨今、地域に根ざした企業として、単発や学年ごとの断片的なプログラムではなく、小学生から大学生までの成長や相乗効果を生む教育デザインが必要であると考え、以下の2つのプログラムを実施している。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学資力向上プログラム 氷川流域の地域活性化を目的とし、ネットワークを活かして全国各地から大学生らを受け入れ、3つの宿泊プログラムを実施している。これらは1ヶ月以上前からSNS等を利用した事前学習に始まり、報告会・振り返りまでを行うもので、地域課題の解決へ向けたグループディスカッションは深夜にまで及ぶが、学生らの相談等に午前3時まで対応することで満足度や達成感が高く、終了後の個人またはゼミ活動においても積極的な行動に繋がっている。</li> <li>・地域の担い手育成プログラム 小学3年生から高校3年生までを対象とした任期1年の子ども記者クラブは、3月に入学式を行い、名刺、腕章、取材ノートを配付し、記事の書き方学習会を経てミニコミ紙へ積極的に記事を寄稿している。</li> </ul> <p>個別のプログラムについては、NIE（教育に新聞を）の推進を目指す熊日クイズの新聞折込みのほか、商品開発と販売を行うわらしべアイスプロジェクト、将来の目標設定の一助とする大学・大学生の活動取材する県外研修、大学生との交流、まちの課題探究・解決コースの新設など多様で、保護者、学校や地域住民からも高い評価を受けている。</p>
	<p>2015年8月 地域づくりインターン 【氷川町職員との政策検討】 氷川町職員と大学生・大学院生が3チームに分かれ、町の課題について昼夜を問わず3日間議論を重ね、報告会へ向けてプレゼン資料を作成中。 うち、町長が認めたゴミ削減の提案については9月の補正予算に計上され、提案が実現した。</p>
	<p>2015年12月 子ども記者クラブ 【わらしべ市での物産販売】 北海道ニセコ町、群馬県みなかみ町、長野県小布施町など全国6つの民間団体と物産の交換を行って対面販売を行う。 例えば、小布施町のリンゴ販売により、同等額の氷川町のみかんが小布施町で販売されるため、間接的に地元農家の支援にも繋がっている。※販売実績は1.3ト</p>



## 中小企業の部

<p>企業・団体名</p>	<p>一般社団法人F o r a</p>
<p>プログラム名</p>	<p>「分からなから決められない」ではなく、「分からないからこそ、決めてみる」 ～高校生目線の進路選択プログラム～</p>
<p>活動の内容 (概要)</p>	<p>大学生による高校生に対してのキャリア教育プログラムを実施。 「やりたいことが見つからない」「学ぶ意味が分からない」という高校生の進路選択における課題を踏まえ、「学ぶことの楽しさ」が原動力となり、「なんとなく」ではなく、「主体的な」進路選択を促す活動している。 具体的に、高校現場で、大学や専門学校で学ぶ学問分野の「本質」を体感できるワークショップを開発し実施。ワークショップ自体は、グループごとに分かれ、手や体、頭を動かしながら取り組むもので、楽しめる内容となっている。しかし、ただ単に楽しい内容だけではなく、対象学問についての理解が深まるような「仕掛け」をしている。高校生は、純粋にワークショップを楽しみながら、知らず知らずの内に、対象学問分野の「本質」を体感している。ワークショップが終わった後に、対象学問を専攻している大学生が、その学問の面白さや、適性について解説をする。そして、各々高校生が、その学問の適性（ワークショップができたか、楽しめたか）を振り返る、という構成になっている。 多くの高校生が、学ぶことを楽しいと感じてはいない。しかし、それは食わず嫌いをしているだけ、ということが殆どだと考える。まずは、1分野でもよいので、大学や専門学校で学ぶ学問分野を、純粋に楽しいと思えること。その「学ぶ楽しさ」を知ることにより、「他の学問分野も調べたい」「もっと深めたい」という、主体的な進路選択に繋げている。</p>
	<p>パスタタワーを立てるワークショップの様子。 生徒自身は、楽しんでワークに取り組む。大学生は教室内を周り、適宜アドバイスや、グループ内にうまく入れない高校生のサポートを行う。 この後に、建築の適性や、面白さを伝える。</p>
	<p>大学生研修の様子 当日実施するワークショップの目的や内容を伝えます。 また、ファシリテーション力等について伝える時間も設け、大学生にとっても有意義な経験になるように心がけています。</p>

## 中小企業の部

企業・団体名	一般社団法人日本ゆめ教育協会
プログラム名	ワクワクゆめ教室～クラスのチーム力で夢発見&夢発表
活動の内容 (概要)	<p><b>プログラムのねらい</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●夢を持つことが、今後の学習やスポーツ、生き方の原動力となることを実感する。</li> <li>●夢発見のプロセスを理解することで、夢や未来をデザインする方法を知る。</li> <li>●ゲーム要素やチーム活動を取り入れ、楽しみながら夢を発見することができる。</li> <li>●全員が夢を発表することで、お互いの夢を理解し応援し合う関係性を作る。</li> </ul> <p><b>プログラムの流れ</b></p> <p>ゲームや夢ワークを通して、楽しみながら夢を発見し、クラス全員で発表し合うワークショップ型の授業。講師は協会認定講師が担当し2～3コマ時間で実施します。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①導入（10分） 講師自己紹介、授業のオリエンテーションを行います。</li> <li>②アイスブレイク（10分） 身体を動かし、心と体をリラックスさせ、発想しやすい状況にします。</li> <li>③夢発見プログラム（50分） ゲームやアクティビティを実施し、夢の種となるキーワードを書き出し、そこから夢を見つけ、ひとつに絞った夢を具体的にイメージカードに記入します。</li> <li>④夢発表&amp;ドリームツリー作成プログラム（15分） 夢を書いたカードを持ってクラス全員の前で自分の夢とその理由を発表します。発表後、ドリームツリーに夢カードを貼り付け、授業終了後もクラスに掲示し、お互いの夢を継続的に意識しあえるようにします。</li> <li>⑤まとめ（5分） 夢発見&amp;夢発表への承認。夢を叶えるために大切なことを伝えます。</li> </ol> <p><b>授業の展開例</b></p> <p>各校のニーズに合わせて、<u>夢と学習・学校生活を接続させ具体的なアクションプランへの落とし込みや夢を多くの人前で発表するためのプレゼンテーションスキル</u>などのプログラムもありますので、学校の学習支援や部活動支援、教職員向け研修等で、ご活用ください。</p>
	
協会認定講師がファシリテーションしながら、“いいね”と“拍手”と“笑顔”で教室の雰囲気を確認と応援し合う雰囲気に変化させて授業がスタートします。	夢たんけんマップを使って自分の頭の中にある情報を「すきなもの」「やってみたいこと」などからイメージし広げていきます。その後、このマップをヒントにひとつの夢にまとめていきます。

## 中小企業の部

<p>企業・団体名</p>	<p>公益社団法人ブルーシー・アンド・グリーンランド財団</p>
<p>プログラム名</p>	<p>B&amp;G 東京湾海洋体験アカデミー2016</p>
<p>活動の内容 (概要)</p>	<p>B&amp;G 財団は、全国 390 自治体と協力の元、主にマリンスポーツ等自然体験活動を通じた青少年の健全育成に係る各種事業を実践してきた。</p> <p>海に対する知識と愛着が不足し、海離れや海洋産業の後継者不足が社会的課題として取り上げられる昨今、海に関連する各分野のトップランナーと協力し、子供達の海への興味・関心を育て、海洋産業の重要性と魅力が再認識できるような「実体験を伴う多角的な海洋学習機会」を提供する取り組みを始めた。</p> <p>海が好きの子供を増やすと共に、継続的に海に親しみ、将来的に海の仕事に携わる人材を育てることを目的に実施する本事業では、4泊5日にわたり、“海のプロフェッショナル”（海上保安官・造船業・水産業・船員・海洋科学研究者等）の仕事現場見学、仕事体験、マリンスポーツ体験等を行う。体験を通じて、各仕事のスケール感、凄さ、楽しさ、社会における重要性などを体感し、必要な資質や技術、取り巻く環境や自分達の生活との関連性等を理解させる。東京湾近郊において、複数の業種を体験させることによって、相互関係を理解させ、関連する様々な海の仕事に目を向けさせることも目指している。</p> <p>また自分の興味と一致する海の仕事を発見し、自分が将来進みたい道、自分なりの海との関わり方など、キャリアビジョンを描くきっかけとなるようワークショップ等を通じて導き、最終日は保護者や講師、マスコミ、協力団体等に対し班ごとに発表する。</p>
	<p>各訪問先では、実際に海の仕事の一端を体験します。</p> <p>例えば、住友重機械マリンエンジニアリングの横須賀造船所では、社長から造船業に関する説明を受けたあと、組ごとに分かれて溶接体験（シミュレーター）、設計士体験、回流水槽実験、造船工程見学、建造途中のタンカー内見学等、学校授業や家族旅行では絶対できないプログラムを体験します。</p>
	<p>最終日の発表会に向けて、每晚体験学習を終えたあと、タベの集いにおいて、班別製作を行います。</p> <p>組付リーダーがファシリテーションをしながら、班長を中心に班ごとに発表方法を相談し、絵を書いたり、クイズを考えたりし、その仕事について感じたことを、保護者やマスコミ、協力団体や他の参加者に対し発表します。</p>

## 中小企業の部

企業・団体名	特定非営利活動法人じぶん未来クラブ
プログラム名	シゴトのチカラ SPECIAL
活動の内容 (概要)	<p>当法人設立 10 周年にあたり、今までの知見を総集した3日間のキャリア教育プログラム。</p> <p>働くことの素晴らしさを体感し、将来に対する前向きな気持ちを醸成することを狙いとしている。</p> <p>プログラムの軸は多方面で活躍する社会人が行う「自分の渾身の仕事」のプレゼンテーションである。社会人が一方的に話すのではなく、クイズやグループワークも挟みながら行われる。生徒のグループにはナビゲーターと呼ばれる大学生のボランティアスタッフ、もしくは社会人がサポートに入り、有効なグループワークの場にする手助けをする。</p> <p>生徒は社会人のプレゼンを2社分聞いた後に、自分達もプレゼンを行う。各日ごとに異なるテーマが設定されており、例えばテーマが「グローバル」の日では「グローバルに活躍する上で大切にすべきことは？」となっている。※参加企業は3日間で22社66名の社会人。</p> <p>生徒は日本の各地の通信制の学校から進学校まで様々なバックグラウンドの全61校の中高校生が参加。社会人からだけでなく、同世代とのセッションやサポート役の大学生からも多くの刺激を受けることで、今の自分を見つめ直し、明日への大きな一歩につながる機会を作り出した。</p> <p>また、一部の高校では本番プログラム日の前後に事前・事後授業も実施。事前授業では、本番に対する期待感・目的意識の醸成、事後授業では、聞いた内容の自分への落としこみを狙いとした。いずれも大学生が主体で授業を進行。特に事後授業では生徒が「自分自身の目指す大人像は？」というテーマでムービーを作成し、発表することで楽しみながら取り組む姿勢が見られた。</p>
	
<p><b>【オープニング】</b></p> <p>参加生徒・社会人全員が集合して実施。社会人が場を盛り上げながら登場、緊張している空気をほぐしていく（ブルーのTシャツは大学生スタッフ。生徒と社会人の橋渡しを担う。）</p>	<p><b>【社会人のプレゼン】</b></p> <p>寸劇やクイズ、グループワークもはさみながら、自分の渾身の仕事をプレゼンする。</p>

## 中小企業の部

<p>企業・団体名</p>	<p>東京都社会保険労務士会 臨海統括支部 キャリア教育研究会</p>	
<p>プログラム名</p>	<p>「働くって!?!」、「みんなを助ける!お金のしくみ」</p>	
<p>活動の内容 (概要)</p>	<p>「働くって!?!」の授業では、社会人への発達段階において、小中高校の間に育てていかななくてはならない「社会人基礎力（職場や地域社会で多様な人々と仕事をしていくために必要な基礎的な力）」や「働くことの楽しさや厳しさ」や「熱意・情熱・忍耐の必要性」等を、家庭や地域でのインタビュー（事前課題として体験学習）等を通して児童・生徒たちに理解してもらうことを狙いとしている。</p> <p>学校での「勉強と活動」が、社会人になってからの「働くこと」につながっていること、そして「夢や志を持つこと」と「働くこと」の大切さについて考えることで、気づきのきっかけを創ることを目的としている。</p> <p>「みんなを助ける!お金のしくみ」の授業では、年金を始めとする社会保障を学び、日本全体で支え合っていることを実感する機会を設けている。</p> <p>社会保険労務士は国家資格者で、独立して開業しているか、企業に勤務している。多様な企業と向き合い、社長や従業員から相談される機会が非常に多い。それぞれの立場等からの豊富な体験談等を通して社会の変化を早い段階で察知していることで、「働くこと」「社会保障」について身近に感じてもらえる工夫を取り入れることが可能であることが特徴である。単なるアピールに陥らず公平な観点から義務と権利を知ることができるよう図っている。</p>	
		
<p>平成 28 年実施 大田区立中学校 2 年生 108 名 での「働くって!?!」授業風景。 生徒が行った事前課題で質問した「社会人と生徒の違い」について、フィードバックしている様子。多い回答を強調しているが、いろいろな考え方があっても伝えている。</p>		<p>平成 28 年実施 大田区立小学校 6 年生 109 名 での「働くって!?!」授業風景。 児童が行った事前課題で質問した「働く時に大切なこと」について、フィードバックしている様子。家庭や地域でインタビュー、思いがけない回答があったりする驚きを共有することもある。</p>

## 中小企業の部

企業・団体名	株式会社マグエバー	
プログラム名	「磁石っておもしろい」 ～子供たちの創造力をひきだす授業～	
活動の内容 (概要)	<p>株式会社マグエバーは、永久磁石及び磁石応用製品の企画、開発、販売を行う会社です。</p> <p>当社は、磁石の可能性を広く皆様に知っていただくことを目的に、2009年から出張授業を開始しました。現在では、授業のための教材・関係協力者等の実施体制が整い、前年から比較すると年間出張授業受講者数も200%増えています。</p> <p>授業の内容は、小学校学習指導要綱「磁石のはたらきや性質」の習得はもちろん、子供たちの発想力、創造力に働きかける内容となっております。クイズ形式をとる等、子供たちに語らせる授業を心がけ、双方向コミュニケーションによる授業は小学校の先生方から高い評価を得ています。</p> <p>今後は、活動の場を小学校だけでなく、一般財団法人あんしん財団・特定非営利活動法人放課後NPOアフタースクールとの協働により、放課後保護者不在の家庭を支える活動も行っています。今まで以上に、子供たちの「理科って面白い」という感動、子供たちのチャレンジ意欲を引き出し、学校等での学びが実社会に結びついていることの気づきを与える授業を行います。子供たちが社会人と触れ合うことで、なりたい自分(職業)を考える機会となるよう、将来を支える子供たちの育成により関わっていきたくと考えております。</p>	
		
高井戸第四小学校 2016.1.26 「磁石の授業の様子」 牛の安全のために、磁石が使われていることを説明しています。 子供たちは、驚きの声をあげながら真剣に聞いています。	キッズジャンボリー 2016.8.17 「工作の様子」 磁石実験キットの中の磁石を使ってドラミング・キツツキを作成しました。 完成した作品に、皆思い思いの絵を描いています。	

## 中小企業の部

<p>企業・団体名</p>	<p>フジイコーポレーション株式会社</p>	
<p>プログラム名</p>	<p>親子就労体験 “うわ～きっず”</p>	
<p>活動の内容 (概要)</p>	<p>“うわ～きっず”は、実際に稼働している工場に入り、弊社の社員として“ものづくり”に携わってもらふ就労体験である。このプログラムのコンセプトは“リアルなビジネス体験”である。そのため、使用する除雪機はダミーではなく、お客様へ販売する除雪機である。作業については、弊社社員が1対1で指導にあたり、参加者には、部品集め、塗装、サブ組み、組立の中から2職場を体験してもらう。</p> <p>普段からものづくりに関わっている社員と接することで、仕事に対する態度や思いを学ぶことが出来る。また、小さな部品から除雪機が完成するまでの工程を確認できる。</p> <p>参加者には、仕事の対価として“うわ～きっずマネー（子供銀行券）”を支払う。働くことは価値のあることだと実感してもらふと共に、報酬を得ることの大変さも実感してもらふ。“うわ～きっずマネー”の有効期限は当日限りとなるため、昼食は、この“うわ～きっずマネー”で購入してもらう。</p> <p>参加者は、このプログラムを通して、小学5年生の社会科の課題である工業についてより深く学ぶことが出来る。加えて、地場産業である“ものづくり(金属加工)”を身近に感じてもらい、将来の就職先として目を向けることが出来る。</p>	
		
<p>塗装エリアにて小学3年生の児童を社員が指導。初めての作業を真剣に行っている様子。保護者（青い作業服）と安全保安係が作業を見守っている。</p>	<p>除雪機の操作を体験する参加者たち。参加者には除雪機の製造工程に加わってもらった。小さな部品が様々な工程を経て、完成する製品。実際に動くことも確認してもらう。</p>	

## 中小企業の部

企業・団体名	エヒメ・ベンチャー・ネットワーキング	
プログラム名	DREAM BACK UPPER (ドリーム バック アッパー)	
活動の内容 (概要)	<p>「DREAM BACK UPPER」は、起業家と若者、起業家同士の交流を通じて若者の創業への機運を醸成するために、平成 26 年 4 月から様々な内容で、定期的を開催している。</p> <p>平成 26 年度は、第 1 弾として、約 50 人の起業家と約 100 人の学生等が一堂に会しての大座談会を開催して、起業への機運醸成を図るとともに、第 2 弾として、起業家と学生等がチームでビジネスプランを作成、発表するワークショップを開催し、起業へのより具体的なイメージを掴むきっかけづくりとした。</p> <p>平成 27 年度は、第 3 弾として、会社設立から模擬店の出店や決算書の作成等を 4 日間で実体験する起業体験を実施し、起業をより実践的かつ身近なものに感じてもらうことで、創業意識の一層の向上を図った。</p> <p>平成 28 年度は、第 4 弾として「集まれ！未来の起業人～パワー無限大」の開催を予定している。内容としては、県内企業を訪問して企業活動や意思決定、リーダーシップ等の実態を体感するとともに、訪問企業の社長から出された実際の経営上の課題等に対して、学生同士のチームで解決策を作成し発表するというものである。</p> <p>開催時期は平成 28 年 12 月を予定しているが、開催に先立ち、平成 28 年 6 月に会員企業と共同でプレイベント「Ehime Future adVenture」を開催した。</p> <p>なお、当団体は、設立以降、上記プログラムのほか、複数回にわたるミニ座談会等を通じて、起業家と学生との触れ合いの場を設け、起業家精神の涵養、創業予備軍の裾野拡大に努めている。</p>	
		
	<p>平成 27 年度開催の「DREAM BACKUPPER Round3」での一幕。 松山市最大の商店街である大街道にて臨時店舗「EVNマルシェ」を出店し、実際に企画した商品を販売することで、商売の面白さ、難しさを学んだ。</p>	<p>平成 28 年 6 月開催の「Ehime Future adVenture」での一幕。 将来的に始業を視野に入れている将来有望な学生 16 名が、(株)エイトワン及び(株)ファインデックスを訪問し、両社の社長が質疑に応じた（写真は(株)エイトワン代表取締役社長：大藪崇氏）</p>



# 優秀賞

<p>企業・団体名</p>	<p>NPO 法人新宿環境活動ネット</p>
<p>プログラム名</p>	<p>新宿の環境学習応援団『まちの先生見本市！』</p>
<p>活動の内容 (概要)</p>	<p>持続可能な社会づくりに向けて、学校における環境学習の重要性が高まっている。特に、学校での学習内容を実生活や実社会と結び付け、次世代を担う子どもたちの「環境に関する幅広い職業観」「持続可能な生産と消費のマインド」を醸成していくことが希求されている。</p> <p>当 NPO は、地域の中で本業を通じて環境活動に取り組んでいる企業をはじめ、学生・区民・NPO・行政等と連携し、こうした環境の専門家を“まちの先生”として学校の学びに活用することで“本物から学ぶ豊かな環境学習”が実現できると考え、2001 年に新宿区の環境学習を支援する人材・プログラム情報バンクとして『新宿の環境学習応援団』を組織した。2016 年度は、57 団体が参加している。</p> <p>具体的には、“まちの先生”と“学校の先生”の情報交流を目指して、“まちの先生”が各立場から応援できる授業プログラム等をまとめた『“まちの先生”登録資料集』を毎年 1,500 部発行し、区内小中学校の全教員に配布している。また、年 1 回、区内小中学校を会場にキックオフイベント『まちの先生見本市！』を開催し、“まちの先生”が“学校の先生”や児童・生徒など約 1,000 名の来場者に対して、パネル展示による対話や模擬授業の披露等を行う機会を設けている。一連の活動により、区内小中学校で年間約 100 件の出前授業が実現し、地域・企業・学校と協働しながら、環境学習を通じたキャリア教育を推進している。</p>
	<p>企業・学校・区民・NPO・行政等のマルチセクターの参画で、「幹事会」「実行委員会」を年間 3~5 回程度開催し、お互いの強みを活かした役割分担と意見交換をしながら事業を展開している。</p>
	<p>地域の中でくらしや仕事の中で環境活動に取り組んでいる企業・学生・区民・NPO・行政等が“まちの先生”として学校の環境学習を支援することで、“本物から学ぶ豊かな環境学習”を目指している。当 NPO は、キックオフイベント開催や冊子作成、環境学習コーディネーターの配置により、環境学習を通じたキャリア教育を推進している。</p>

## <審査委員からの評価コメント>

- 学校とまちを結び付ける視点、意図、役割が明確であり信頼できるプログラムであり、地域と学校が協働してキャリア教育を提供する地元密着型のコーディネーションの実践として見本となる。
- 大手企業が多数参加することで、それらの企業のリソースが活かされ多様な環境対応の実態が理解できる。
- 地域で活動する大人や企業を子供や学校の応援団とすることにより、必然的に環境や働くこと生き方のヒントなどに気付く機会となっている。

# 奨励賞

企業・団体名	特定非営利活動法人グローバル人材開発センター
プログラム名	「グローバル人材」育成事業
活動の内容 (概要)	<p>教育の社会化を目指し、実践的で主体的な学びに力点を置いた PBL（課題解決型学習）を開発し、地域経済・地域社会の発展を支える情熱と、グローバルな視点で物事を考える能力をともに有する「グローバル人材」をオール京都体制で育成している。企業等から提示された自社の悩みや課題を、大学や学部、学年の違う 6 名程度の学生チームが調査や議論を経て解決策を導き出す。最終報告までに、学生は企業人からアドバイスや厳しい意見を複数回直接受ける。年度末に開催する成果報告会では、複数の学生グループが自身の学びを広く社会に発信するだけでなく、企業人と学生のトークセッションや交流会を開催している。当法人では PBL の開始から幾度となく繰り返すこうした対話の機会を大変重視しており、フランクにホンネで語れる「場づくり」を実践する事で、企業は新しい感性を取り入れ、学生はこれまで知らずにいた中小企業の魅力を自然に知っていく。又、こうして学生が身に着けた「主体性」「創造性」「コミュニケーション力」「行動力」といったアクティブな能力を証明するツールとして職能資格「GPM（グローバルプロジェクトマネジャー）」を作りあげ、昨年末に運用を開始した。企業にとっては「地域社会の将来を担い活躍する能力を備えている」という判断基準となり、学生にとっては PBL 受講の目標となっている。現在、中学生、高校生、大学院生にむけた PBL も少しずつ増えてきている。</p>





PBL 事例「新商品マーケティングプロジェクト」  
 京都の老舗企業、佐々木酒造(株)の新商品（ノンアルコール飲料）について、観光客を対象としたマーケティングを行い、学生目線の新しい発想で販売方法を提案した。社長自らが現場に立ち、熱心に対応する姿を見て、この「想い」が伝わるような提案をしたいと考えるようになり、学生ミーティングや調査にも熱が入った。

成果報告会第 2 部に開催した、トークセッションの様子。 企業人・経済団体・行政から 2～3 名、学生 2～3 名で 1 テーブルを囲み、1 つのテーマについて思いつく考えを付箋 1 枚に 1 つ、それぞれが記入し、項目ごとに模造紙に貼る。意見をまとめるのは学生ファシリテーターである。毎回熱い議論が繰り広げられる。



### <審査委員からの評価コメント>

- 地元企業をリアルに理解するための PBL を取り入れた実践生・達成感が期待されるプログラムであり、中学・高校を対象を広げつつある点、公的機関・大学等との連携により地域全体の取組に高めようとしている点を評価。
- PBL プロセス全体に企業人が関わり、第三者に公開した成果発表会も開催されている。
- 話し合いを大切にされたプロセスにより、アナログではあるが人間性やあたたかみという雰囲気や醸成されるなか、学生間のコミュニケーションを主体に価値観形成が行われるプログラムとして特徴的。
- 他の地域からの視察も増えており、他の都道府県への波及効果を期待できる。

コーディネーターの部

<p>企業・団体名</p>	<p>株式会社 アジアンリザレクション</p>	
<p>プログラム名</p>	<p>第二新卒やフリーターへ向けた IT キャリア育成プロジェクト「M'rais」(ミライズ)</p>	
<p>活動の内容 (概要)</p>	<p>M'rais (ミライズ)とは三年間で、業界未経験者を経験者にまで育て上げ、本人の資質にあった企業へ就職する事をゴールとした「キャリア育成プロジェクト」。</p> <p>技術研修を実習し、様々なプロジェクトを経験しながらスキルを身につけ、希望に沿った IT キャリアを構築する。在籍期間中は一定の給与も支給されるため、生活の心配をせずに自身のキャリアを育てる事に集中できる環境となっている。当社の「M'rais」(ミライズ)プロジェクトから多くの技術者を企業へ排出する事で、IT 業界の技術者不足に貢献できるのではないかと期待している。「M'rais」(ミライズ)に参加すると、まずはIT の基礎研修を一ヶ月間実施し、研修後は在籍する3年間で「自分がどういった資格を取得」し、「どういったスキルを身につけていくか」という IT キャリアシートを作成する。自分がどういった IT キャリアを構築していったら良いのかわからない人の為に、参考となるモデルケースをいくつも用意している。IT キャリアシートを作成する事で、目標を持ち、モチベーションを高く維持しながら、無駄なく充実した3年間となる。その後は作成した IT キャリアシートに沿って、実際のプロジェクトに参画し、スキルと経験を身につけていく。また、プロジェクトに参画している間も、キャリアカウンセラーと定期的に相談しながらキャリアの方向性がズレないようにしている。</p>	
	<p>キャリアカウンセラーと自身の IT キャリアについて面談を実施している風景</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① キャリアカウンセラーと自身のキャリアシートに対し、現在の進捗状態と今後の計画について相談する。</li> <li>② 参画しているプロジェクトで学んだ事、身につけた事について雑談を交えながら振り返る。</li> </ol>	
	<p>「技術研修」を実施している際の講義中の風景</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① ネットワーク・通信分野の基本的な技術について講義形式にて教わる。</li> <li>② 不明点があれば随時質問をし、PC による操作と併せて理解を深める。</li> </ol>	

コーディネーターの部

<p>企業・団体名</p>	<p>特定非営利活動法人 WEBREIGO (ウェブレイゴ)</p>	
<p>プログラム名</p>	<p>世界に開かれるキャリア教育</p>	
<p>活動の内容 (概要)</p>	<p>学生国際標準オリンピックに生徒が出場することを、毎年サポートしている。</p> <p>●目的 「標準」は学習指導要領にない分野だが、世界で標準化の必要性が叫ばれている。日本も2015年からIOCや周辺国に賛同し、学生に「標準」を推進、体験させるために出場している。 この国際大会において、生徒がメダルを獲得するために必要な思考力・判断力・表現力・行動力等を指導する。</p> <p>●何を学ぶか 「標準」は、学校の授業にないため、「標準」の知識、英語、プレゼンテーションの仕方、資料作成、工作における設計・物作りの仕方、アイデアの出し方等を学ぶ。日本のアピール動画を制作するため、映像・文化の授業を行い、地域の協力を得て撮影を実施している。 レセプションの民族衣装として浴衣等を着られるように実技指導をし、披露する伝統文芸等、踊りの指導を行う。</p> <p>●どう学ぶか 大会は素養の高さが要求されるため、アクティブラーニング方式で生徒の素の力を引き出す体得指導を実施。</p> <p>●何ができるようになるか 標準化製品をチームで時間内に制作できる。 設計図を基に標準化についてプレゼンテーションができる。 世界に友人ができる。 日本のアピール動画が制作できる。</p> <p>●持続可能な活動に向けて レポートを提出し、国へ報告会を実施している。 参加希望の学校や学園祭で報告し、特色ある報告会を実施している。 ウェブで世界に情報を発信・公開しつつ、次年に参加する生徒のために支援に参加している。</p>	
		
<p>2016年、国際標準オリンピックにおいて産学連携・共同により、銅メダルを獲得した。</p>	<p>大会の内容は、制限時間内に提示された部品を使用し、標準化されたものを作る。設計図を描き、製品を制作し、その制作物のメリット・デメリットを上げる。さらに課題を標準化し、プレゼンテーションをするというものである。画像は日本代表チームに対して、国土交通省での勉強会の様子である。</p>	

## 第7回「キャリア教育アワード」募集要項

### 1. キャリア教育アワードの趣旨

- ▶ 新興国の台頭など企業の競争条件の激化に伴い、若者に求められる職務遂行能力が高度化していく傾向にある中、職業人としての資質や能力の向上、「働くこと」への関心・意欲の高揚を通じた学習意欲の向上などを目的とした「キャリア教育」を、子供・若者たちに対し早期から行うことの重要性が高まっています。
- ▶ 学校教育においては、基礎的な知識の定着やスキルの習得だけでなく、学習内容と実社会とを関連づけ、自己の将来について考える「キャリア教育」が推進されていますが、実施にあたっては、企業・地域の協力が不可欠です。なぜなら、企業・地域の人々が「本物の社会」「本物のシゴト」を教えることが、子供たちの興味・関心を惹きつけ、「働くこと」に対する価値観の醸成、学習意欲向上などにつながっていくからです。
- ▶ 近年では、次世代を担う若者育成のため、企業や地域社会が積極的に教育支援活動を行う事例が増加してきていますが、これらの活動は、企業の社会的責任（Corporate Social Responsibility：CSR）としての貢献活動にとどまらず、企業側にも様々な効果をもたらしています。実際に取り組んだ企業等からは、自社のブランド価値の浸透や、若者向けの製品やサービスの品質向上といった直接的なメリットもさることながら、活動に参加した社員が自己の仕事の内容ややりがいを子供に伝えることを通して、自らの仕事の価値を再認識するという、社員自身の人材育成にも効果があるといった効果や、全社的に取り組むことで企業内のコミュニケーションが活発化するといった効果が報告されています。
- ▶ これからの社会を支える子ども・若者に対する社会的投資としての教育への参画活動をさらに促進する観点から、企業等における教育支援活動の先進的な取組を表彰し、その成果を広く社会で共有することを目的として、昨年度に引き続き第7回「キャリア教育アワード」を開催します。是非御応募ください。

#### ◆キャリア教育とは◆

一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、キャリア発達を促す教育である。

（平成23年1月中央教育審議会「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について（答申）」）

## 2. キャリア教育アワードの概要

キャリア教育アワードは、企業や団体による教育支援の取組を奨励・普及するため2010年度に創設された表彰制度です。

第7回キャリア教育アワードは、下記要領に従い実施いたします。

### (1) 応募期間

2016年7月1日（金）～2016年10月21日（金）（必着）

### (2) 応募対象

小学校から大学・大学院段階の子ども・若者を対象としてキャリア教育に取り組む企業・経済団体等及び専門的な知識、経験に基づいたキャリア教育プログラムやマッチングサービス等を提供するコーディネーター機関とする。

- ※ 学校教育に対する支援活動に限らず、放課後や休日を利用した学校外における教育支援活動も含まれます。
- ※ 職場体験・インターンシップ受け入れを行っている企業・団体も積極的に募集します。
- ※ キャリア教育の実践例としては、「職場体験活動」や「職業人による講話」などが広く知られています。しかし、例えば、学校における国語・算数・数学・英語などの教科教育や、環境教育・食育・金融教育・人権教育などに代表される個別テーマ性の高い教育活動についても、それらを通して課題解決能力、キャリアプランニング能力などの社会的・職業的自立に向けた力を育成するための意図的な働きかけがなされていれば、それらの活動は「キャリア教育」としても重要な機会となります。
- ※ 応募対象となるか判断が困難な場合は、事務局にお問い合わせください。

### (3) 応募資格

- 応募者は、取組を行っている主たる事業者であること。
- 2016年4月1日以降にキャリア教育を実施した企業・団体であること。なお、2016年3月31日以前から継続して活動している場合も応募可能です。審査の対象は原則として2016年4月1日以降の活動となりますが、2016年度の取組が実施中で、前年度と同様に実施する予定である場合には、2015年度の取組内容を審査対象とします。
- 活動内容の公表が可能な企業・団体であること。
- 学校教育におけるキャリア教育の取組を支援している事例の場合には、当該学校から応募に係る一切の事項について了承を得ていること。
- 応募企業・団体が表彰を受ける場合、その代表者又は代表者に準ずる者が2017年1月17日（火）に開催する表彰式（東京）に参加することが可能な企業・団体であること。
- 前年度までに、応募・受賞の実績があっても構いません（ただし最優秀賞受賞者は除く）。

### (4) 賞の構成

各企業・団体の取組の主体により3部（大企業の部・中小企業の部・コーディネーターの部）より構成することとし、審査委員会による審査により、大賞、最優秀賞、優秀賞、奨励賞を決定します。

## 【審査部門】

### ① 大企業の部

キャリア教育に取り組む大企業・団体（従業員数が300人超）

### ② 中小企業の部

キャリア教育に取り組む中小企業・団体（従業員数300人以下）

※大企業のグループ企業については、単独企業としての取組については企業規模に応じて審査部門を判断するが、他グループ企業の体制・施設等を活用してグループとして取り組んでいる場合については、①大企業の部に応募する。

### ③ コーディネーターの部

複数の企業や学校が行うキャリア教育を、専門的知識・経験に基づいたキャリア教育プログラムやマッチングサービス等を提供することで支援するコーディネーター機関

※商工会議所・商工会・中小企業団体・商店街・協議会等が会員企業を取りまとめてキャリア教育支援活動を実施している場合は、②中小企業の部に応募する。

## 【賞の構成】

大賞	最優秀賞のうち、総合的に最も優秀と認められる取組
最優秀賞 (経済産業大臣賞)	各部（大企業の部・中小企業の部・コーディネーターの部）において最も優秀と認められる取組
優秀賞	各部（大企業の部・中小企業の部・コーディネーターの部）において優秀と認められる取組
奨励賞	企画性や教育効果に卓越した点があり、今後の継続的な取組により、一層の発展が期待される取組

## (5) 審査基準

企業等による継続的・効果的なキャリア教育支援の取組を評価する観点から、応募された取組について以下の項目により評価を行います。

### ● 大企業の部・中小企業の部

審査基準	審査項目
・継続性 長期にわたり運営していくため、継続的に改善するサイクルが実行されているか	授業実施前に計画（実施体制、スケジュール等）は練られているか
	学習者・学校に対する感想文・アンケート調査等を通じた評価・分析を踏まえ改善を行っているか
	事業の継続に必要な実施体制が整えられているか
	プログラムの改善や支援者である社員や関係者の意欲向上に役立てるために、取組に参加した社員や関係者等の意見・感想を把握し改善につなげているか
・普及性 企業・団体の活動規模に応じた展開をしているか	企業・団体の活動規模に応じ、より多くの学校（または地域）で実施しているか
・汎用性 教育ニーズに対応できる取組となっているか	実施時間数に変異性・柔軟性はあるか
	【学校教育内での活動】学校側と学習目標・内容のすりあわせを行っているか 【学校教育外での活動】地域の課題や学習者の学習課題を踏まえた内容となっているか
・企画性 プログラムの内容に工夫があるか（目標設定、授業の進め方等）	プログラムによって育成したい能力など目的・目標が定まっているか
	目的・目標に対して、プログラム内容・手法は適切か（成長段階に応じた内容・手法になっているか、学習者の集中力を引きつける内容となっているか等も勘案）
	核となるプログラム(体験学習等)の効果を高めるための事前・事後学習を行っているか（学校と協議の上、学校側にて行っている場合も含む）
	チームや多様な立場の人々と協力・コミュニケーションする内容が盛り込まれているか
	学んだ内容をワークシートやレポート・プレゼンテーションにより発表する工夫がされているか
成果物・成果発表等に対するフィードバックを行う機会が用意されているか	

<b>・キャリア教育としての教育効果</b> 授業内容が、社会的・職業的自立に向けた力の育成支援となっているか	自己の可能性・適性への気づき、「将来の生き方」への興味関心・意欲を喚起する内容となっているか
	社会の実情を知り、学びの必要性を感じる内容となっているか
	社会人基礎力（前に踏み出す力・考え抜く力・チームで働く力）等、多様な人々と協働して仕事を行っていくために必要な能力の育成に資する内容となっているか

## ● コーディネーターの部

審査基準	審査項目
<b>・有効性</b> 職業的自立に向けた教育効果の向上に貢献する支援サービスを提供しているか	学校および企業、地域社会のニーズや、活用できる地域資源を踏まえたプログラムを開発できているか
	一人一人の社会的・職業的自立に向けて、社会人基礎力（前に踏み出す力、考え抜く力、チームで働く力）等、多様な人々と協働して仕事を行っていくために必要な能力や態度を育てる教育を、教育対象となる各段階の学生・生徒・児童に対して適切に実行できているか
	事前・事後学習、フィードバックを行うなど、体験で得た知識や経験を深めるためのプログラム上の工夫がなされているか。
	プログラムを実施した際の児童・生徒等、教員、協力者の意見を参考にしながら実体に即したプログラム案へと改良する等、継続的に改善するサイクルを実行して取組みの向上をしているか
<b>・支援実績</b> 数多くの企業・学校・若者に支援サービスを提供しているか	より多くの企業・学校・若者に支援サービスを提供しているか
<b>・産学関係構築への貢献</b> 産学関係者が相互理解を深め、協働するための関係構築に貢献しているか	プログラムの計画に沿って、支援する人材・企業と、時間や場所、必要物品、事前学習等の実施に関する連絡調整を適切に行っているか
	産学教育関係者の相互理解を深め、効果的な教育づくりを持続的に推進するための議論の場や、勉強会等を設けているか
	産学協働の持続的な関係作りや、その拡大に向けて効果的な普及・啓発活動を推進しているか

## （６）審査方法

提出いただいた応募書類への記載内容を対象として、学識経験者、経済団体関係者、教育関係者等有識者から構成される審査委員会において審査します。必要に応じ、事務局によるヒアリングにご協力いただく場合があります。

## （７）スケジュール

応募受付期間                      2016年 7月1日（金） ～ 10月21日（金）必着  
 審査結果通知                      2016年 11月下旬  
 表彰式                                2017年 1月17日（火）

※「文部科学大臣表彰（キャリア教育優良教育委員会、学校及びPTA団体等文部科学大臣表彰）」「キャリア教育推進連携表彰」と併せて表彰式を行います。

## （８）問い合わせ先

キャリア教育アワード2016事務局  
 （キャリア教育コーディネーターネットワーク協議会）  
 担当：小寺・松倉  
 〒167-0051  
 東京都杉並区荻窪5-28-3 1階1号  
 TEL 03-3392-1988  
 FAX 03-5335-7366  
 E-mail [award@human-edu.jp](mailto:award@human-edu.jp)



### 3. 応募方法

#### (1) 応募書類

応募書類は、個人情報を除いた上で、活動内容と写真を事例集に掲載し、Webや表彰式などで配布する事例集などで公表いたします。このため、写真については、撮影者、被写体の許可が得られているものをご提出ください。電子媒体の準備が難しい場合は、事務局までお問い合わせください。

#### ● エントリーシート（必須）

下記 URL よりエントリーシートをダウンロードし、必要事項を御記入の上、コピー 2 部及びデータ保存された電子媒体 1 部をご提出ください。

URL: <http://www.meti.go.jp/policy/economy/jinzai/career-education/award.html>

#### ● 活動資料

##### ① 活動状況が分かる写真

写真は 2 種類をエントリーシートへ貼付け、またその写真データを jpg 形式にて電子媒体に入れてご提出ください。

ファイル名は企業・団体名とし、複数写真がある場合は「-数字」をつけてください。

##### ② その他活動内容や成果等が分かる参考資料

参考資料は 3～5 枚程度として下さい。（形式は問いません）

#### (2) 応募方法

● 3. (1) で示した必要書類を、キャリア教育アワード事務局まで郵送してください。FAX や、E-mail 等による提出は原則として受け付けられません。

● 応募締切 2016年10月21日（金） 必着

● 応募書類送付先

〒167-0051

東京都杉並区荻窪 5-28-3 1階1号

キャリア教育コーディネーターネットワーク協議会

キャリア教育アワード 2016 事務局 宛

#### (3) 注意事項

● 提出いただいた資料類、写真類は返却いたしませんので、あらかじめ御了承ください。

● 審査に関する問い合わせには応じられません。

● 応募いただいた団体名や活動内容を、新聞、雑誌、インターネット等で公表することがあります。また報道関係者等からの取材にご協力をお願いすることがあります。

#### (4) 個人情報の取り扱いについて

● 応募者の個人情報は、審査及び運営に必要な範囲内で利用し、第三者へ提供することは一切ありません。応募者の同意なく、利用目的を越えて利用することはありません。

■ 「キャリア教育アワード」受賞企業・団体一覧①

年度	賞の種類		団体名		
平成22年度	第1回	最優秀賞	・パナソニック株式会社		
		小宮山審査委員長賞	・横須賀商工会議所		
		優秀賞	・会津若松商工会議所青年部 ・株式会社シマノ ・新生フィナンシャル株式会社 ・日本アイ・ピー・エム株式会社		
		審査委員特別賞	・テックエンジニアリング株式会社		
平成23年度	第2回	大賞・最優秀賞	地域ネットワーク型キャリア教育部門 ・福井商工会議所青年部		
		最優秀賞 (経済産業大臣賞)	普及型キャリア教育部門 ・シャープ株式会社、NPO法人気象キャスターネットワーク 地域密着型キャリア教育部門 ・株式会社西島製作所		
		優秀賞	普及型キャリア教育部門 ・株式会社ウィザス ・清川メッキ工業株式会社		
			地域密着型キャリア教育部門 ・株式会社熊谷組		
			地域ネットワーク型キャリア教育部門 ・株式会社教育と探求社		
		審査委員特別賞	・千葉市・千葉大学教育学部 ・西尾信用金庫		
平成24年度	第3回	大賞・最優秀賞	地域ネットワーク型キャリア教育部門 ・練馬区・練馬アニメーション協議会		
		最優秀賞 (経済産業大臣賞)	普及型キャリア教育部門 ・シャープ株式会社 地域密着型キャリア教育部門 ・株式会社ケミカル山本		
		優秀賞	普及型キャリア教育部門 ・花王株式会社 ・ソニー生命保険株式会社		
			地域密着型キャリア教育部門 ・愛媛県中小企業家同友会		
			地域ネットワーク型キャリア教育部門 ・公益社団法人太田青年会議所 ・東京商工会議所		
		奨励賞	普及型キャリア教育部門 ・一般社団法人日本チャレンジ教育協会 ・株式会社読売新聞東京本社		
			地域密着型キャリア教育部門 ・有限責任あずさ監査法人 ・SBエナジー株式会社 ・積水化学工業株式会社		
		平成25年度	第4回	大賞・最優秀賞	中小企業の部 ・岩村田本町商店街振興組合
最優秀賞 (経済産業大臣賞)	大企業の部 ・ソニー生命保険株式会社 地域企業協働の部 ・アイシン精機株式会社・アイシングループ				
優秀賞	大企業の部 ・アクセンチュア株式会社コーポレート・シチズンシップ 「若者の就業力・起業力強化」チーム ・株式会社ダスキン				
	中小企業の部 ・特定非営利活動法人G-net(ジーネット) ・橋本産業株式会社				
	地域企業協働の部 ・株式会社Campanula(カンパニユラ) ・特定非営利活動法人鳳雛塾				
奨励賞	大企業の部 ・積水化学工業株式会社 高機能プラスチックカンパニー 化学教室プロジェクト				
	中小企業の部 ・一般社団法人ディレクトフォース ・株式会社野村総合研究所				
	地域企業協働の部 ・特定非営利活動法人国際社会貢献センター ・ジョブスタディ(運営事務局:コクヨ株式会社) ・中高生夢チャレンジ大学実行委員会				
平成26年度	第5回			大賞・最優秀賞	中小企業第2部(協働の部) ・かわさきマイスター友の会
				最優秀賞 (経済産業大臣賞)	大企業の部 ・MSD 株式会社
		中小企業第1部(単独の部) ・特定非営利活動法人地域活動支援センターぶろぼの ぶろぼのスコラ事業部			
		コーディネーターの部 ・特定非営利活動法人アスクネット			
		優秀賞	大企業の部 ・ダイキン工業株式会社 ・株式会社日立製作所 ユニバーサルデザイン出前授業プロジェクトチーム		
			中小企業第1部(単独の部) ・スリール株式会社		
			中小企業第2部(協働の部) ・瀬戸キャリア教育推進協議会		
			コーディネーターの部 ・特定非営利活動法人南大阪地域大学コンソーシアム		
		奨励賞	大企業の部 ・SCSK株式会社 ・日本ビューレット・バックカード株式会社 ・株式会社フジテレビジョン		
			中小企業第1部(単独の部) ・折り紙ヒコーキ協会(事務局:株式会社キャストム) ・一般社団法人 Summer in JAPAN ・株式会社トモノカイ		
			中小企業第2部(協働の部) ・リエゾン・テートル		
			コーディネーターの部 ・特定非営利活動法人企業教育研究会 ・株式会社キャリアリンク ・株式会社ソシオエンジン・アソシエイツ		

※平成23年度より、最優秀賞(経済産業大臣賞)受賞者のうち、総合的に最も優秀と認められる企業・団体等に「大賞」を授与している。

■ 「キャリア教育アワード」受賞企業・団体一覧②

年度	賞の種類		団体名		
平成27年度	第6回	大賞・最優秀賞	大企業の部	・積水化学工業株式会社	
		最優秀賞 (経済産業大臣賞)	中小企業の部	・ダイソン株式会社	
			コーディネーターの部	・有限会社オーシャン・トゥエンティワン	
			大企業の部	・日本生命保険相互会社	
		優秀賞	中小企業の部	・一般社団法人アルパ・エデュ ・公益社団法人日本ストリートダンススタジオ協会	
			コーディネーターの部	・キャリア教育研究所ドリームゲート	
	奨励賞		大企業の部	・株式会社ユニクロ ・株式会社三菱UFJフィナンシャル・グループ、 株式会社三菱東京UFJ銀行	
		中小企業の部	・一般社団法人中国地域ニュービジネス協議会 ・京都商工会議所 環境・エネルギー特別委員会		
		コーディネーターの部	・株式会社トゥワイス・リサーチ・インスティテュート		
	平成27年度	第7回	大賞・最優秀賞	大企業の部	・株式会社博報堂
			最優秀賞 (経済産業大臣賞)	中小企業の部	・認定特定非営利活動法人キーパーソン21
				コーディネーターの部	・一般社団法人九州インターンシップ推進協議会
優秀賞		大企業の部	・キャノングループ内8社 ・富士通株式会社		
		中小企業の部	・株式会社アトリエテンマ		
		コーディネーターの部	・一般社団法人ドリームマップ普及協会 ・特定非営利活動法人新宿環境活動ネット		
奨励賞		大企業の部	・東京ガス株式会社 ・大日本住友製薬株式会社		
		中小企業の部	・東京商工会議所 ・徳島県信用保証協会 ・有限会社せれくと		
		コーディネーターの部	・特定非営利活動法人グローバル人材開発センター		